

2024年10月31日

秋も深まり、ウィスコンシン州やアンダーソン日本庭園で、鮮やかな赤や黄色に光り輝く紅葉を楽しめる時期になった。

10月7～10日、プリツカー・イリノイ州知事が経済貿易ミッションを率いて訪日。知事訪日は、日本側にとっても、関係を構築・強化し物事を前に動かす絶好の機会。知事に対して日本の政治経済状況や日米関係について事前ブリーフする機会を得た。



公邸の仲間



プリツカー知事と

今月は、良好な日米関係の基礎にある、20年、30年、50年と続いている、州レベルの経済連携と草の根・人的交流、そしてその二つの要素の好循環についてご紹介する。

1 第26回大カンザスシティ日本祭り

10月5日、毎年数千名の来客を集めている大カンザスシティ日本祭に参加した。名誉領事、日米協会、日系企業、在留邦人と補習校、JETAA、日本研究を有する大学関係者、日本の文化・武道等、多くの米国人と日本人とが一堂に会し、祭りの企画・運営を通じて連携と親睦を深めている。パナソニックの進出で日本人駐在員も増加し、参画している日本人コミュニティも益々活気づいている。トーランド副知事夫妻も来場し、我々と一緒に伝統音楽や生け花を鑑賞した。

前日4日には平塚ローレンス姉妹都市の関係者からお話を伺った。1990年に締結され、今でも中学生の相互交流・ホームステイが続

いているという。その後、祭り会場のコミュニティ・カレッジに場所を移して、学生や住民との対話セッションを行った。「原稿を準備してのスピーチ」ではなく「原稿なしで双方向の対話をしてみよう」と初めての試み。約60名に参加頂いた。



トーランド知事夫妻と



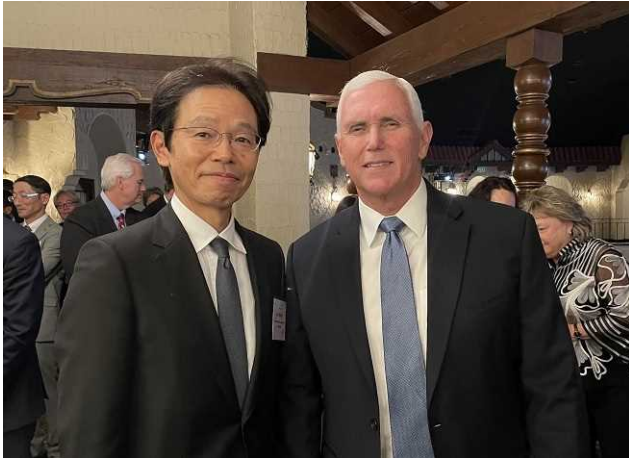
学生・住民との対話

2 インディアナ日米協会ガラ

10月14～16日に山田駐米大使と一緒にアイオワ州とミネソタ州に出張した後、17日にインディアナ日米協会（JASI）主催の年次ガラ出席のためにインディアナポリスに向かった。

マイク・ペンス前副大統領（前知事）が夫妻で参加。夕食の隣席で懇談する機会を得た。私が挨拶の中で「The US and Japan stand united」と述べた際には、ペンス前副大統領は拍手を率先。ペンス副大統領は、基調講演の中で「柳総領事は、私が最初の訪日の際に覚えた大好きな日本語『絆』を思い出させてくれた」と述べたうえで、私の挨拶内容（米国が長年にわたり築き上げてきた国際秩序が挑戦に晒されている中で、米国の指導力が求められている）に言及しながら、米国社会に忍び寄る孤立主義の風潮に警鐘を鳴らす。私の挨拶とペンス前副大統領の基調講演が共鳴する形になった。

JASI は、草の根交流にとどまらず、インディアナ日本人会（主に日系企業関係者の組織）とも連携してビジネス志向の企画を多く手掛け、州政界の要人とも関係を築いている。今回のガラにも約350名が参加。テレサ専務理事以下、JASI の長年の実績、企画力・実行力・人脈にはいつも感嘆する。



ペンス前副大統領と



JASI ガラでの挨拶

3 ネブラスカ州 カワサキ50周年

10月23日、ネブラスカ州都リンカーンにある Kawasaki の工場（KMM）50周年記念式典に参加。州側からはピレン知事、フィッシャー連邦上院議員、リケッツ連邦上院議員（前知事）、フラッド連邦下院議員、リンカーン市長等が、川崎重工側からは本社の橋本社長以下、グループ・関連企業の社長・重役が日本・米国各地から参集。双方にとって、KMM がいかに重要な工場であるかを象徴している。

モーターサイクル製造部門として開設。日本のモノ造りを米国で牽引してきた「先駆け」だ。今回の一連のイベントの主役は、Kawasaki で40年以上勤務してきた叩き上げのマイク・ボイル社長だ。ボイル社長いわく「KMM では、日本人の細部への配慮や訓練を厭わない資質と、米国人の工夫と創造の資質が融合されている」。日本人以上に日本人的に気配りのできる人だ。川崎重工の本社側の日本人役員と Kawasaki の米国人社員双方の信頼を得ている。米国人がトップに立ったことに対する NE 州側の評価も高い。

現在展開している、消費者向け多用途四輪車、鉄道車両、航空機貨物扉等の製造現場もリケッツ議員他と一緒に視察。「徹底したムダの排除」や「製造現場を整理整頓された状態に保つ」ことを鉄則とする「Kawasaki 製造システム」の説明を受けた。

式典後、Kawasaki が支援し 1992 年に開設した「川崎文庫」を往訪。ネブラスカ大学と地域住民に対する日本語と日本文化の発信拠点だ。11 年間勤めている佐藤まどかディレクターに公館長表彰をさせて頂いた。大学内の博物館に保管されている「ミス三重」も視察。1927 年、日米間の政治的緊張を緩和すべく米国から 12000 体の「青い目の人形」が送られた。それに対する答礼として日本から送られた 58 体の人形の一体だ。2027 年には日米人形交流 100 周年を迎える。



ピレン知事と



kawasaki 50 周年式典で挨拶



川崎文庫にて



「ミス三重」と